とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	光明第七こども園
活動日時	2026.10.5
クラス（年齢）	幼児クラス（3，4，5歳児）
年間テーマ	自然

1．活動テーマ

≪テーマ≫

みんなのもりをなおそう！～かんばん編～

≪テーマの設定理由≫

子どもたちが日頃から親しんでいる「みんなのもり」に設置している手づくりの看板が、長年の使用により劣化し、壊れていることに気が付いた。子どもたちと一緒に看板の状態を確認し、修繕することにした。木などの自然素材は、雨や風、日差しなどの影響を受けながら少しずつ変化していく。今回の活動を通して、自然素材の特徴や変化に気付き、身近な自然に目を向けるとともに、自分たちがつくり上げてきた「みんなのもり」を大切にしようとする気持ちを育みたいと考えた。

2．活動スケジュール

主活動の合間に個別に声をかけて少人数ずつ行う

3．探求活動の実践

≪活動の内容≫（活動のために準備した素材や道具、環境の設定）

パネル、エプロン、筆、アクリル絵具

≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り≫

「みんなのもり」をもっと楽しく、みんなが親しめる場所にしたいという子どもたちの思いから、新しい看板づくりがスタートしました。

今回は、アクリル板に「みんなのもり」の文字を一文字ずつ描き、色を塗る活動に取り組みました。子どもたちは、文字の形を確かめながら、筆を使って丁寧に色を塗っていきました。

「何色にしようかな？」「きれいな色にしたいね」など、看板の完成を楽しみにしながら取り組む姿が見られました。一文字ずつ色を塗る作業を通して、自分たちの手で森の看板をつくっていることを感じ、期待を膨らませていました。

これまで森の変化に気づき、どうしたらよいかを考えてきた子どもたちにとって、今回の活動は、自分たちの思いを実際の形にしていく大切な一歩となりました。







4．振り返り

≪振り返りにより得た保育者の気づき≫

今回の活動では、看板の破損に気付いたことをきっかけに、木材が自然環境の中で少しずつ変化していくことを考える機会となった。木は丈夫な素材である一方、雨や風、日差しなどの影響を受け、時間の経過とともに傷んでいく。身近な環境の変化を実際に目にすることで、子どもたちが自然の働きに気付くきっかけになったと考える。
また、壊れたから新しいものに取り替えるのではなく、直して使い続けるという経験は、物を大切にする心や、身近な環境を自分たちで守ろうとする気持ちにつながるものである。子どもたちが日頃から親しんでいる「みんなのもり」だからこそ、自分たちの気付きが実際の環境づくりにつながり、主体的に活動する姿が見られた。
自然との関わりは、植物や生き物に触れることだけではない。自然の中にある素材の変化に気付き、環境を整えながら大切に使い続けることも、自然への理解を深める大切な経験であると感じた。
今後も「みんなのもり」で過ごす中で、木材や植物、生き物などの変化に目を向け、子どもたちの気付きや疑問を活動につなげていきたい。また、自然素材を使った遊びや制作を通して、素材の特徴や変化を感じられる機会を大切にしていく。
さらに、森の看板や遊具など、子どもたちが自分たちでつくったものを定期的に点検し、必要に応じて修繕する経験を重ねることで、自然に親しみながら、自分たちの生活環境を大切にし、よりよくしていこうとする気持ちを育んでいきたい。